

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/3階)

事業所番号	2794000253		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカークロしばはら・リポーン		
所在地	大阪府豊中市柴原町2-7-15		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.shinmeikai.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ご本人様が入居前の生活スタイルを出来るだけ崩さず、その人らしい生活を送って頂けるように支援します。コロナウイルス蔓延防止の為、最近では行えていませんが、地域の行事や市が行っている行事に出来るだけ参加し、地域との関わりを大事にしています。運営母体が医療法人なので、週に1回歯科往診があり、口腔内のトラブルを回避できたり、早期に治療できています。月2回内科医の往診があり、日ごろの健康状態を確認して頂き、急な体調変化の場合には、24時間ドクターに連絡し、対応方法を受ける事が出来ます。認知症状や精神症状の状態が悪くなられた方に対しては、精神科の往診を受けて頂く事も出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を朝礼時に唱和し、困った時や困難にぶつかった時に共通認識として持つようにし、そのように努力している。6か月に1回の面談で理念共有の状況確認を行っている。また、理念に基づくグループホームの目標を設定している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスが蔓延する前は、地域より定期的にボランティアの方に来て頂いたり、小学校の合唱団の方に来て頂いたり地域の行事(主に敬老会等)、市の行事に参加したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトのポスターを玄関に貼り、依頼があれば出向く予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス蔓延防止の為、開催は見合わせているが、年6回の運営推進会議を行い、地域の方、市、地域包括等の行政の意見、入居者も参加して頂き意見を伺い、運営に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は、年間研修計画に基づき、年2回開催している。身体拘束等適正化委員会を3か月に1回開催しており、管理者、各ユニットのサブリーダーが話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在は身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に基づき、高齢者虐待について勉強会を行っている。日常的なケアの中で、不適切な接遇があれば、注意し合える関係に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に基づき、人権について勉強会を行い、権利擁護について個々の職員が考える機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、重要事項を説明し、契約の締結を事業所に来所又は訪問させて頂きご理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではもちろんの事、来訪時や入居様様の体調の変化の際、ケアの方向性でご家族様のご要望をお聞かせいただきたい時は、電話やメールをさせて頂き、ご家族様からの意見を聴取し出来るだけ意見を反映させられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、副施設長、サブリーダーは、年に2回以上職員との面談の機会を設け、運営に関する意見を聞き、反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回個人面談を行い、個人の能力等を把握している。それに応じての昇給昇格を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、施設内で勉強会を行い、職員がスキル向上や知識向上の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスが蔓延する以前は、豊中市の事業者連絡会に参加し、交流を図っていた。現在はZOOMでの連絡会開催となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時等聞き取りを行い、出来るだけ不安な事や要望に耳を傾け、落ち着いて過ごして頂けるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望を聞き、ご入居後も生活に反映させていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる情報はご本人様、ご家族様と話し合いをし、必要な支援を担当の介護支援専門員と検討し、必要な場合には他のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをさせて頂く中で、出来る事、出来ない事を見極め、出来る事はして頂き、出来ない事はサポートする事を基本に、出来るだけご本人様を主体として生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス蔓延防止の為、開催は出来ていないが、運営推進会議と一緒に参加する機会を設け家族様と本人が過ごせる機会を設けるように努めている。 コロナウイルスで、面会して頂けないので、ブログや施設通信に行事や日常の写真をのせ、どの様な生活をされているか知って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みに方との関係を継続されている方はいらっしゃらないが、ご家族様と絵手紙でやり取りをされたり、昨年末は、ご家族様へ年賀状を入居者様、お一人おひとり手作りで作って頂き出して頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の生活を把握し、食事を食べる席も考慮し楽しい雰囲気でご過ごして頂けるようにしている。難しい時はスタッフが間に入り楽しく会話できるようにしたり、少し距離を取り、落ち着いて頂いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も電話連絡や必要に応じて訪問している。また、退所後にお通夜やお葬式の連絡を頂いた場合は参列させて頂く等の対応も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々変化していく体調やADLの変化に合わせて、ご本人様の要望や意向を受け止め、その都度、臨機応変に対応できるように努めている。居室担当制を取り入れており、ご入居者様お一人に職員一人が担当させて頂いている。フェイスシート等で情報が少ない際は、居室担当者や介護支援専門員がご家族様に問い合わせたり、来訪された際に尋ねるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況を把握し、そして過去の暮らしを把握して出来るだけご本人様が今までの暮らしを継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から、職員同士で入居者様の状態やADLについて話し合う機会を持っており、日ごろの変化に敏感に気づけるように努めている。居室担当者は、夜勤をしない職員もいるが、職員が勤務に入る際には、必ず前日、前夜の申し送りを受け、職務に入るようにしている。最重要事項については、1週間申し送り続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを更新する際のカンファレンスで、居室担当者は、夜勤帯も含め情報を収集し、より良く過ごして頂けるようにトータル的に話し合っている。居室担当者は、入居者様の生活歴や趣味を踏まえて、3カ月程度で達成できる個人目標を設定し達成に向けサポートさせて頂いている。ケアプラン更新時期ではない際の状態変化に対しても、柔軟に対応できるように、日常的に話し合う機会を持ち、必要であれば、ケアプランの変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をスタッフで共有し、必要であればカンファレンスを行いその都度変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、外泊、外出等家族様の要望に応えられる様に努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回フラワークラブを開催しており、近くのお花屋さんへ花を届けて頂いている。季節行事では、仕出し屋さんから出前をして頂き、ホーム内ではなかなか口にすることが出来ない食べ物を召し上がって頂いている。コロナウイルスが蔓延する前は、近くに回転寿司やファミリーレストランへ外出に出て頂く事もあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人様、ご家族様に説明させて頂き、納得した上で、経営母体の医療クリニックがかかりつけ医となっている方が大半である。泌尿器科や眼科など、入居以前からのかかりつけ医を継続されている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様のちょっとした変化も看護師に報告し、状態を確認してもらい、指示を受けている。少し気になる事が有れば、放置するのではなく、気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院先医療機関の相談員さんと連絡、調整を図り、必要に応じて退院前にカンファレンスに参加し早期退院が出来るように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一般社団法人日本看取り士会認定の『看取り士』が運営グループ内で講習を行い、『看取り人』を養成し、看取りの際に対応させて頂いている。看取りに近づいた場合は、かかりつけ医とご家族様が話し合われる際に、ご一緒させて頂き、看取りの概要を説明させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には往診のかかりつけ医と24時間連絡の取れる体制を作っている。看護師も急変時には対応できるように体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。設備としてはスプリンクラー、ナースコール、場内放送設備がある。食料や介護用品、衛生品の備蓄もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきプライバシーを損ねないように努めているが、時として徹底できていない場合もある。ご入居者様は「さん」付けで呼ぶようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人様の希望を聞き自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに参加して頂く際は、強制せず自由に参加して頂いている。お一人おひとりの過ごし方を尊重し、無理強いをしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人様の希望に沿ったおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、テーブル拭きをお願いしている。レクリエーションの際、たこ焼きを焼いて頂くを手伝って頂いたりしている。『食育レク』を立ち上げ、日ごろあまり口にされる事の無いマクドナルドやカップラーメン、ピザ、かき氷を作るおやつレクリエーション等、楽しんで頂く計画をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量、水分摂取量を把握し記録している。嚥下状態に合わせて刻み食やミキサー食、水分へトロミをつける等、その方に合わせて提供方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きを行っている。9割の方が歯科の往診を週1回受けておられ、口腔内のトラブルを回避できたり、早期に治療して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録する事によりお一人おひとりの排泄パターンを把握するように努めている。状況に応じて布パンツやパットの種類を変えて快適に過ごして頂けるように努力している。年間の研修計画の中で、オムツメーカーの方に来訪して頂き、パットやオムツの当て方を講義して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳やヨーグルトを提供している。便が出にくい方は個別に牛乳を飲んで頂いたり、運動をして頂くようにしている。水分の摂取量をその都度記録しており、必要な水分量の把握に努めている。排泄パターンにより、起床後長目に便座に座って頂く方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個浴なので基本的に1対1で対応させて頂いている。ご本人様の希望も確認しつつ入浴剤を入れたり、音楽を聴きながら入浴して頂いたり、良い香りのするボディークリームを塗らせて頂き、リラックスできる入浴時間、湯上りの香りを楽しんで頂いている。季節により、ゆず湯や菖蒲湯に入って頂き、季節を感じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、お一人おひとりの体力や持病に合わせて、その日その日の体調に応じて休息をとってもらい、無理なく日々を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬の変更等あった際は、理由と目的を看護師に日誌と往診ノートに記録してもらい情報を共有している。 個人の情報ファイルの中に、今飲まれている薬の一覧と用法、用量、副作用が記載されている用紙を綴じ、閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から個別にホームでの役割を見つけ出し、ケアにつなげている。出来る事と興味のある事を出来るだけ居室担当者がくみ取り、ケアプランの個人目標に掲げ、取り組みをサポートさせて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス蔓延の為、中々外出は出来ないが、天気の良い日は、極力散歩や外気浴に出て頂ける様にしている。 外出表という用紙を作成し、強制はしないが、個別に外出できる機会を確保できるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿って立て替え金による買い物を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	去年の年末は、年賀状を出させて頂いた。ケアプランの個人目標で、ご家族様と絵手紙でやり取りをされている方がおられ、サポートさせて頂いている。コロナウイルス蔓延防止の為に面会が出来ないので、介護支援専門員がご家族様の要望をお聞かせいただいた際に、ご本人様に電話を取り次ぎ、ご家族様とお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行っている。環境整備係を任命し、その指示の下、スタッフ全員で環境整備に取り組んでいる。月に1回、壁画を入居者様に作成して頂いて飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを置いたり、日が入る場所に日向ぼっこ出来る場所を作ったり、イスを色々な所に設置し、思い思いに過ごせる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様にとって出来るだけ愛着のある物や馴染みの物を持って来て頂いている。基本的には、ご本人様とご家族様と相談して衣類の入れ替えや片付けを行って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングにホワイトボードを設置し、日付と曜日を記載している。壁には1日の大まかな流れを記載した物を掲示している。漢字パズル等を本棚に置き、入居者様にご自身で選び、ひと時を楽しんで頂ける様にしている。		